

ひとの
＊ちから

CLOSE UP



ぎふ国体 熊本県成年男子
ソフトボールチーム 監督

西川和敏さん

にしかわ・かずとし 昭和51年生まれ、北増永在住。往復2時間の通勤時間は、音楽を聞いてリフレッシュ。遠征や練習がない貴重な休日は、洗車やドライブ、読書をして過ごすそうです。

9月29日から開催されている第67回国民体育大会ぎふ大会。10月6日から始まる成年男子ソフトボール競技の熊本県チームを監督として率いるのが、本市在住の西川和敏さんです。

西川さんは荒尾一中（現・海陽中）から熊本工大高校（現・文徳高校）を経て三菱電機熊本工場（合志市）に入社。同社ソフトボール部に入部し、現在は選手兼監督として活躍しています。

「中学生の頃は陸上をしていました。高校で足の速さを見込まれて、ソフトボール部に誘われたんです」

気軽に入ったソフトボール部は、競技経験がある生徒ばかりが在籍していました。しかしそんな生徒に負けたくないという思いが西川さんを練習に駆りたてました。「3年間地獄でしたね」と当時を懐かしそうに語ります。努力が実って2年生でレギュラーを獲得、その年のインターハイでは3位の成績を収めました。

高校3年のとき、卒業後

も大学でソフトボールを続けるつもりだった西川さんに、三菱電機熊本から勧誘の声が掛かりました。

「悩みましたが、地元で好きなソフトボールを続けたい」と実業団入りを決断。チームでは外野手・4番バッターを任されました。3年前に33歳で監督に就任してからは、監督として苦労や孤独と向き合いつつ、面白さも感じていきます。選手兼監督ならではの指導を模索し、今のチーム力は「実業団日本一も夢ではない」というところまで育てました。

今回の国体チームでは、監督に専念。県の総合成績に貢献するため、ベスト4入りを目指しています。

西川さんは、「子どもたちにソフトボールをもっと広めたい」と目を輝かせ、荒尾での普及活動にも意欲をのぞかせています。

自分のチームから日本代表選手を出すのが夢だという西川さん。その夢を、荒尾の子どもたちとともに叶える姿が見たいものです。